

女性活躍の推進に関する調査

指導教員 金沢大学 特任助教 齊藤 実祥
教授 寒河江 雅彦
金城大学 准教授 平子 紘平

参加学生 金沢大学
小竹 由夏 岩脇 芽生 松本 莉奈 吉尾 知佐子

女性活躍の推進に関する調査

齊藤実祥※1 寒河江雅彦※1 平子紘平※2
小竹由夏※3 岩脇芽生※3 松本莉奈※3 吉尾知佐子※3

※1 金沢大学人間社会研究域
※2 金城大学総合経済学部
※3 金沢大学人間社会学域経済学類

令和5年度実施

①活動の目的

白山市は、子育て世代が多い20代後半～30代の転入がここ数年で増加し、市民の平均年齢は46.7歳で全国より低く、活気ある街である。「住みよさランキング2022」では5位を獲得し、生活水準の高さや県内首位級の工業都市であること等、地域での生活面と労働面とのバランスの良さ等が評価されている。しかしながら、女性市民の暮らしやすさについては、生活面・仕事面・子育て面について様々な課題が考えられる。例えば、子育て中の短時間勤務制度の充実や、職場復帰に向けたリスキングに関する支援の不十分さ等である。

そこで、本活動では白山市に住む女性の生活面・仕事面・子育て面に関する実態を調査および分析によって明らかにし、その結果を白山市へフィードバックする。

②活動内容

白山市内の企業と育児中の女性との雇用のミスマッチの問題や、休業からの職場復帰の際に不安なことを知りたいといった自治体からの課題をもとに、基礎調査として既存統計資料でのデータ分析と、アンケート調査分析を行った。

政府統計等のデータ分析では、白山市と石川県内市町・県外の同人口規模都市とを比較して、人口や世帯数といった基本的な情報を整理し、白山市の就業や子育て環境等の特徴を明らかにした。

政府統計等の既存データからは把握が難しい女性市民の主観に基づく実態を明らかにするため、アンケート調査を実施した。アンケート結果については、単純集計・クロス集計・テキストマイニングで分析した。

(下図:白山市公式LINEを通じたアンケート調査)



③活動成果

<既存統計資料でのデータ分析結果>

人口等の基本情報、就業や育児環境等について県内・県外市町との比較分析を行った。白山市では、製造業を自地域内産業の強みとしており、女性労働力率が55.2%(住みよさランキング内39位)で全国的にも高いことが示された。

<アンケート調査分析結果>

白山市在住の18～49歳の女性を対象に、Webアンケートを行った。基本属性、生活面、仕事面、子育て面の計43項目について、約3週間で147票の回答があった。

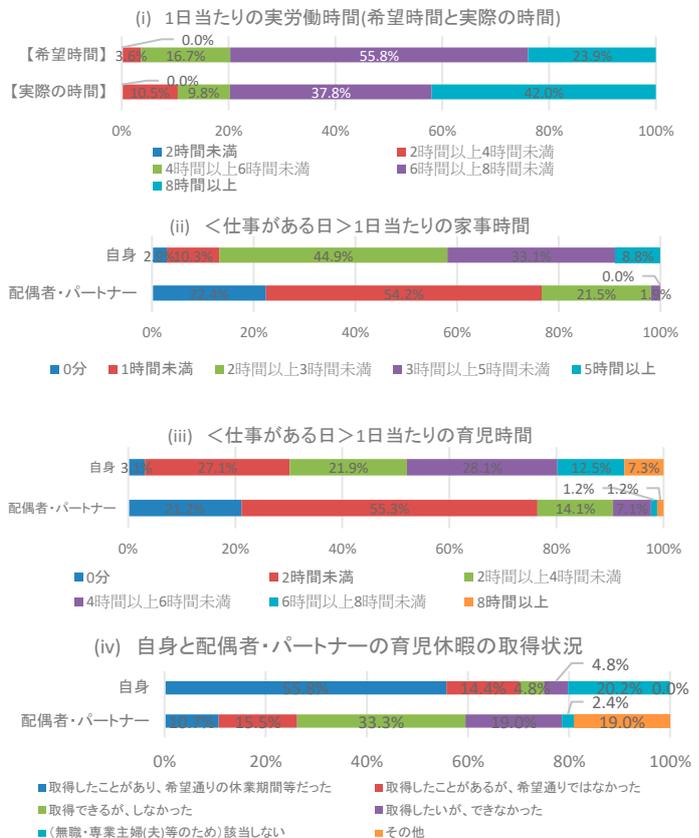
(i)1日当たりの実労働時間では、希望より長時間働かざるを得ない者が多く、反対に短時間にせざるを得ない者もあり、希望と現実の乖離が見られる。

(ii)1日当たりの家事時間で、2時間以上の割合は、回答者自身が86.8%で、配偶者・パートナーは23.4%である。

(iii)1日当たりの育児労働で、2時間以上の割合は、回答者自身が69.8%で、配偶者・パートナーは23.6%である。

(iv)育児休暇の取得状況では、回答者の70.2%が取得しているのに対して、配偶者・パートナーでは26.2%だった。回答者の89.3%が共働きであることから、女性への仕事・家事・育児の負担が大きいことが明らかになった。

自由回答では、男女で収入に格差があることへの不満や、子供の遊び場や子育て支援の充実を求める声が挙げられた。



⑤今後の展望

今後は本活動の分析結果から浮かび上がった、白山市の女性活躍推進にあたっての課題やニーズについてより深く調査を行いたい。(例)女性市民へのヒアリング、国勢調査に基づく行動分析など

1. 活動の要約

白山市は、市民の平均年齢が低く、直近の数年間で子育て世代の転入が増加しており、活気ある街である。また、「住みよさランキング 2022」では 5 位で、生活水準の高さや県内首位級の工業都市であること等が評価され、生活面と労働面とのバランスが良い自治体である。

しかしながら、女性市民の暮らしやすさについては、生活面・仕事面・子育て面で様々な課題が挙げられる。そこで、本活動では白山市に住む女性の生活・子育て・仕事の 3 つの側面に関する実態を明らかにし、その結果を自治体にフィードバックすることで、市民のニーズに合った支援策が更に充実することを狙う。

2. 活動の目的

金沢大学(2023)「人口問題における石川中央都市圏の都市機能のあり方等調査研究報告書」によると、子育て世代が多い 20 代後半～30 代の白山市への転入がここ数年で増加している。また、市民の平均年齢は 46.7 歳で全国と比較して低く、活気ある街である。東洋経済「住みよさランキング 2022」の総合評価において、白山市は 812 市区中 5 位を獲得している。ここでは、生活水準の高さや、県内首位級の工業都市であることなど、自地域内での生活面と労働面とのバランスの良さ等が評価されている。

しかしながら、女性市民の暮らしやすさに少し焦点を絞ると、生活面・仕事面・子育て面について様々な課題が考えられる。例えば、子育て中の短時間勤務制度の充実や、職場復帰に向けたリスクリングに関する支援の不十分さ等である。従って、本活動では白山市に住む女性の生活面・仕事面・子育て面に関する現状を調査および分析によって明らかにする。分析結果については報告会を開催して白山市へフィードバックする。

3. 活動の内容

まず、白山市の関係部署へのヒアリングと打ち合わせを実施した。ヒアリングでは、白山市内の企業と子育て中の女性との雇用のマッチングが上手くいかない問題や、休業からの職場復帰の際に不安なことを明らかにしたい等の課題が挙げられた。また、アンケート作成に係る調査対象者と質問項目内容の検討や、分析結果のフィードバック方法について両方で議論した。

白山市が挙げた課題を踏まえた上で、既存統計資料からのデータ分析とアンケート調査分析を行った。政府統計資料等からのデータ分析では、白山市と石川県内市町・県外の同人口規模都市とを比較して、人口や世帯数といった基本的な情報を整理し、白山市の就業や子育て環境等の特徴を明らかにした。政府統計等の既存データからは把握が難しい女性市民の主観に基づく実態についてはアンケート調査を実施し、その結果を分析した。

2 月末(予定)に報告会を開催し、実態分析の結果やそこから浮かび上がる課題や市民のニーズについて白山市へ報告する。

4. 活動の成果

<既存統計資料でのデータ分析>

白山市の客観的指標に基づく特徴を明らかにするため、政府統計等のデータを用いて他の自治体との比較を行った。ここでは、「人口」などの基本情報、「女性労働力率」などの就業に関する指標、「子

どもの医療費助成（通院・入院）」などの育児環境に関する指標について分析を行った。比較対象として、石川県内市町からは、石川中央都市圏の「金沢市」、「かほく市」、「野々市市」、「内灘町」、「津幡町」の5市町を選択した。

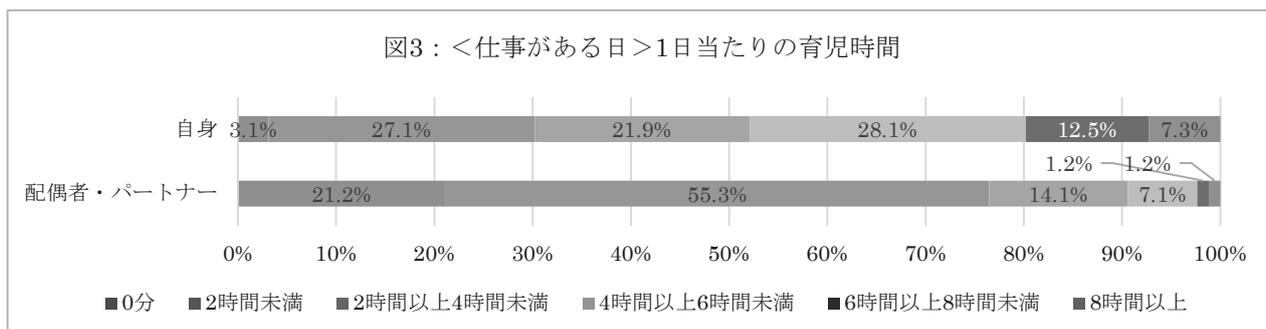
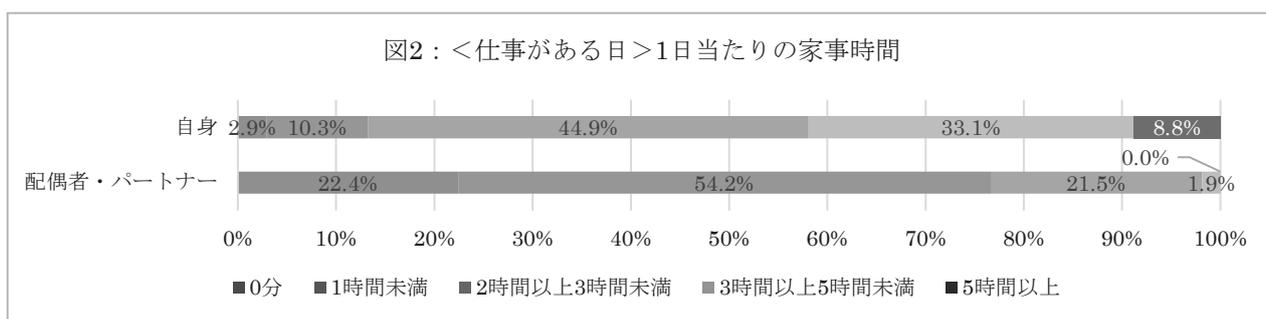
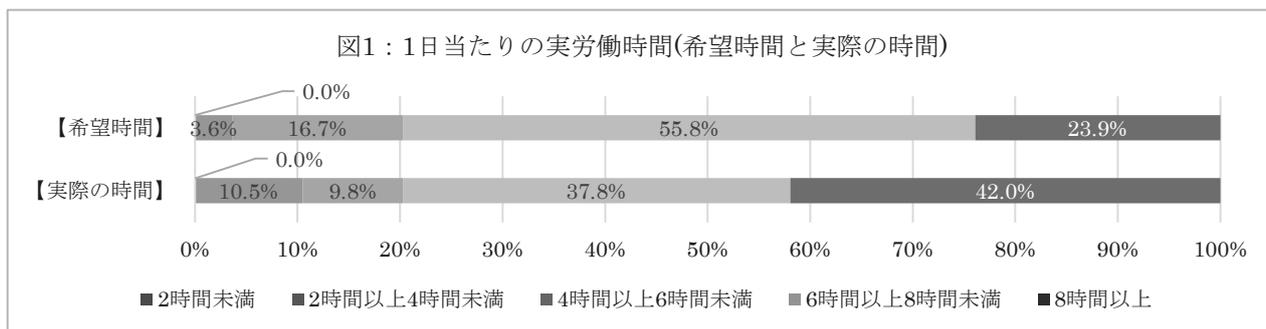
また、石川県外からは、白山市と同程度の人口で「住みよさランキング 2022」の総合評価が上位である「福井県越前市」、「香川県丸亀市」、「東京都武蔵野市」、「鳥取県米子市」、「岐阜県高山市」の5市を選択した。白山市の主な特徴として、製造業の事業所数・従業員数が多く、自地域内産業の強みとしている。また、女性労働力率が55.2%(住みよさランキング内39位)で全国的にも高い割合であることが分かった。

<アンケート調査分析>

女性市民の主観に基づく生活・仕事・子育てについての実態を明らかにするため、白山市在住の18～49歳の女性を対象に、Google フォームによるWebアンケート調査を行った。アンケートでは、年齢や世帯人数などの「基本属性」、白山市に住む理由などの「生活面」、現在の就業形態などの「仕事面」、育児休暇取得状況などの「子育て面」に関する計43項目を調査した。

白山市の公式LINEと白山商工会議所の広報誌を通じて市民へ調査を周知した。調査期間は2023年12月20日～2024年1月15日の約3週間で、有効回答数は147票だった。

アンケート結果については、単純集計、クロス集計、自由回答のテキストマイニングによって分析した。分析結果について、一部抜粋して掲載する。



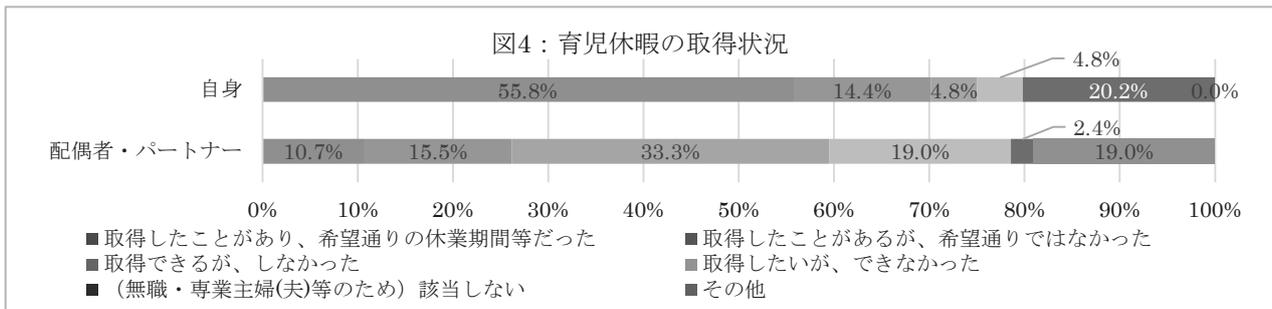


図1は回答者の1日当たりの実労働時間(希望時間と実際の時間)である。「8時間以上」が希望では23.9%で、実際は42.0%であることから、自身の希望よりも長時間就労している者が多い。一方で、より働きたいが短時間労働にせざるを得ない者もおり、希望と現実とで乖離が見られる。

図2は1日当たりの家事時間、図3は1日当たりの育児時間である。家事時間が2時間以上の割合は、回答者自身が86.8%で、配偶者・パートナーは23.4%である。育児時間が2時間以上の割合は、回答者自身が69.8%で、配偶者・パートナーは26.2%である。回答者の89.3%が配偶者・パートナーと共働きであることを踏まえると、家庭での家事・育児の役割が女性側に偏っていることが分かった。

図4は回答者自身と配偶者・パートナーの育児休暇の取得状況を示している。希望通りかに関わらず、回答者自身の70.2%が育児休暇を取得しているのに対して、配偶者・パートナーでは26.2%だった。一方で、「取得したいが、できなかった」の割合が、回答者自身は4.8%で、配偶者・パートナーは19.0%であった。配偶者・パートナーは主に男性であることを鑑みると、育児休暇取得率に男女間の差もあるものの、男性側が育児休暇を取得しづらい実態も浮き彫りになった。

5. 今後の活動計画

今後は本活動の分析結果から浮かび上がった、白山市の女性活躍推進にあたっての課題やニーズについてより深く調査を行いたい。

- ・アンケート調査の継続
- ・白山市に住む女性(Iターン組、大都市圏からのUJターン組、白山出身・居住組)へのヒアリング
- ・昼夜間人口比率等での移動特性の分析
- ・金沢大学のオンサイト施設を利用した国勢調査に基づいた市民の行動分析

6. 活動に対する地域からの評価

アンケートの自由回答に寄せられた女性市民の声を一部抜粋・編集して掲載する。

<白山市の良い点>

- ・子どもの医療費が18歳まで無償で、支援が充実している。
- ・金沢エリアまでのアクセスもよく、環境的にも住みよい。
- ・除雪等の行政サービスが行き届いている。

<白山市への要望等>

- ・男女間の賃金格差をなくしてほしい。

- ・女性向けの在宅ワークや就業支援講座があると嬉しい。
- ・行政からの生活等の支援、公共交通機関、子どもの遊び場などをもっと充実させて欲しい。